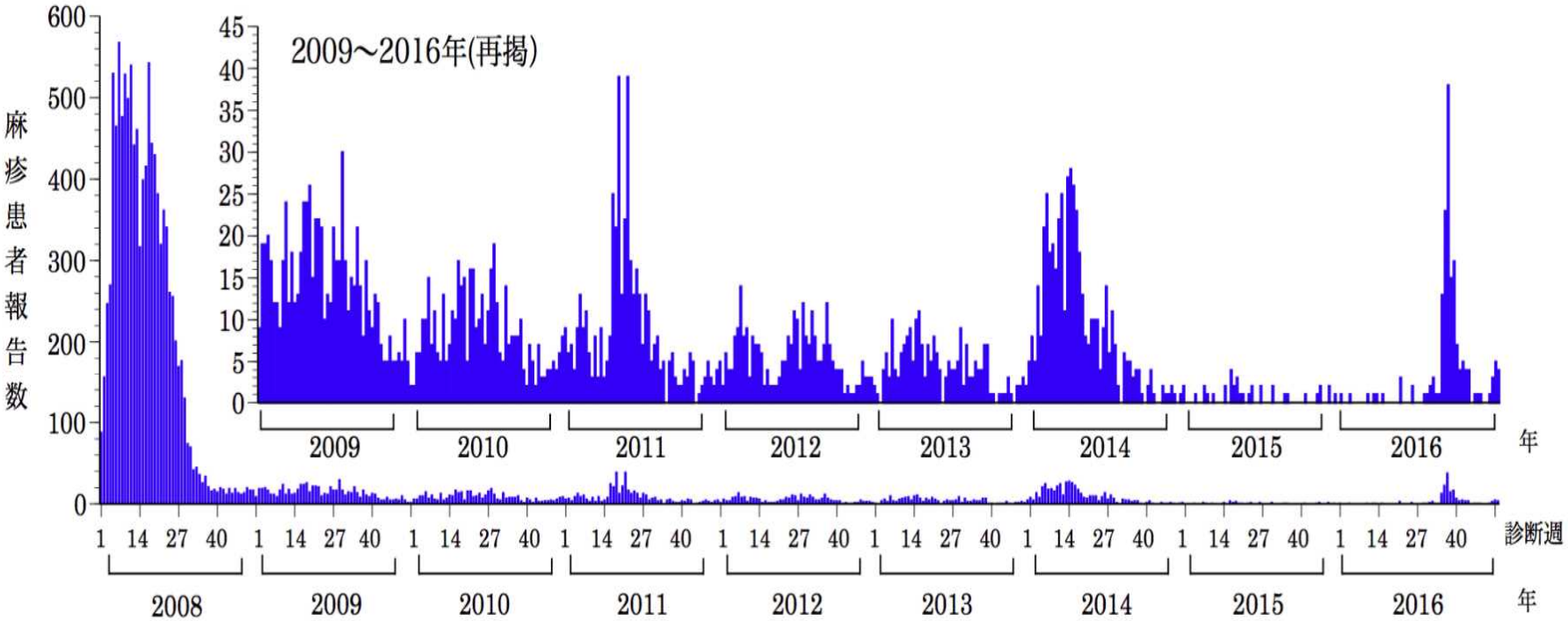
資料1

麻しん・風しんの発生状況について

国立感染症研究所
感染症疫学センター

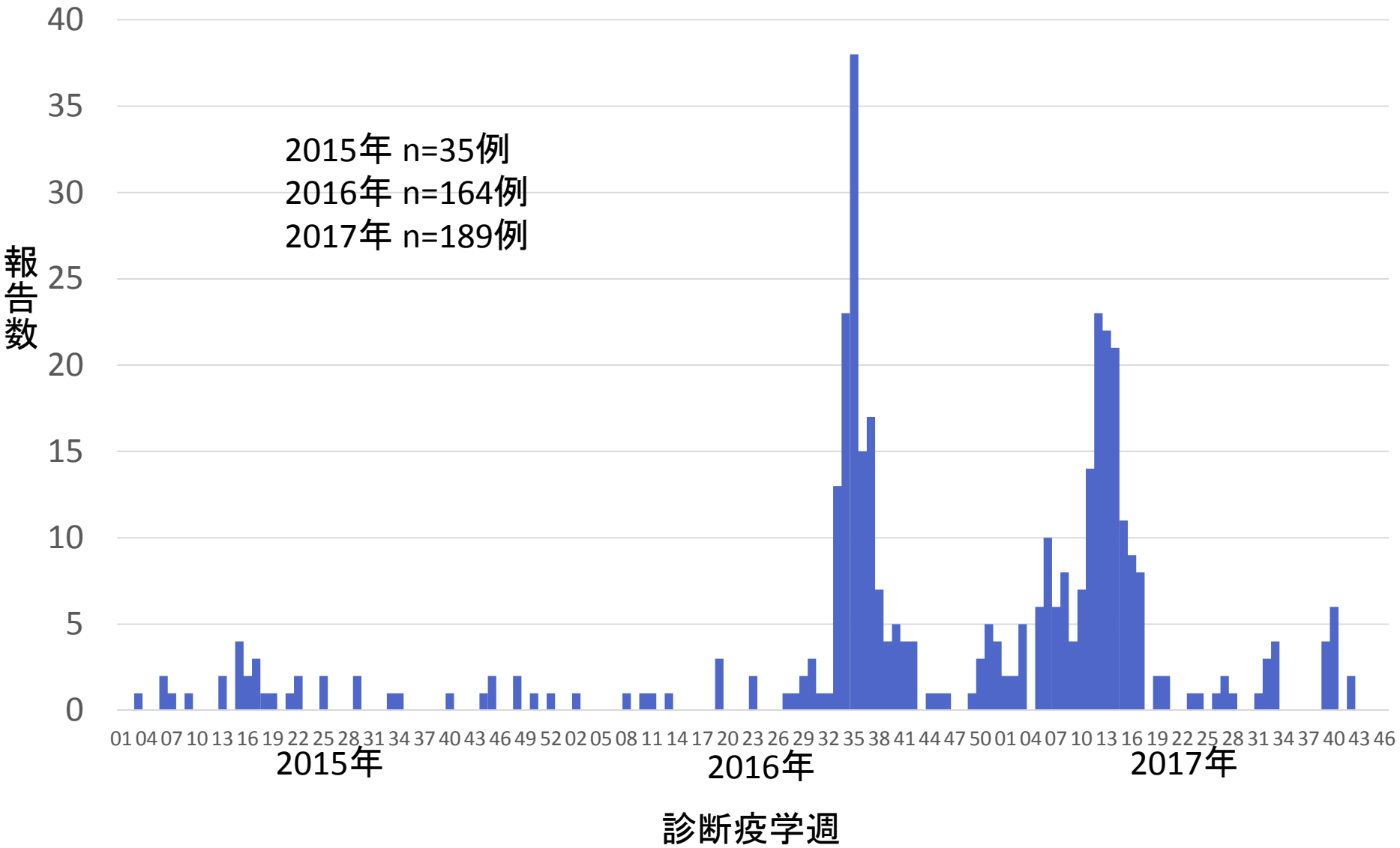
麻疹患者の週別報告数、2008～2016年



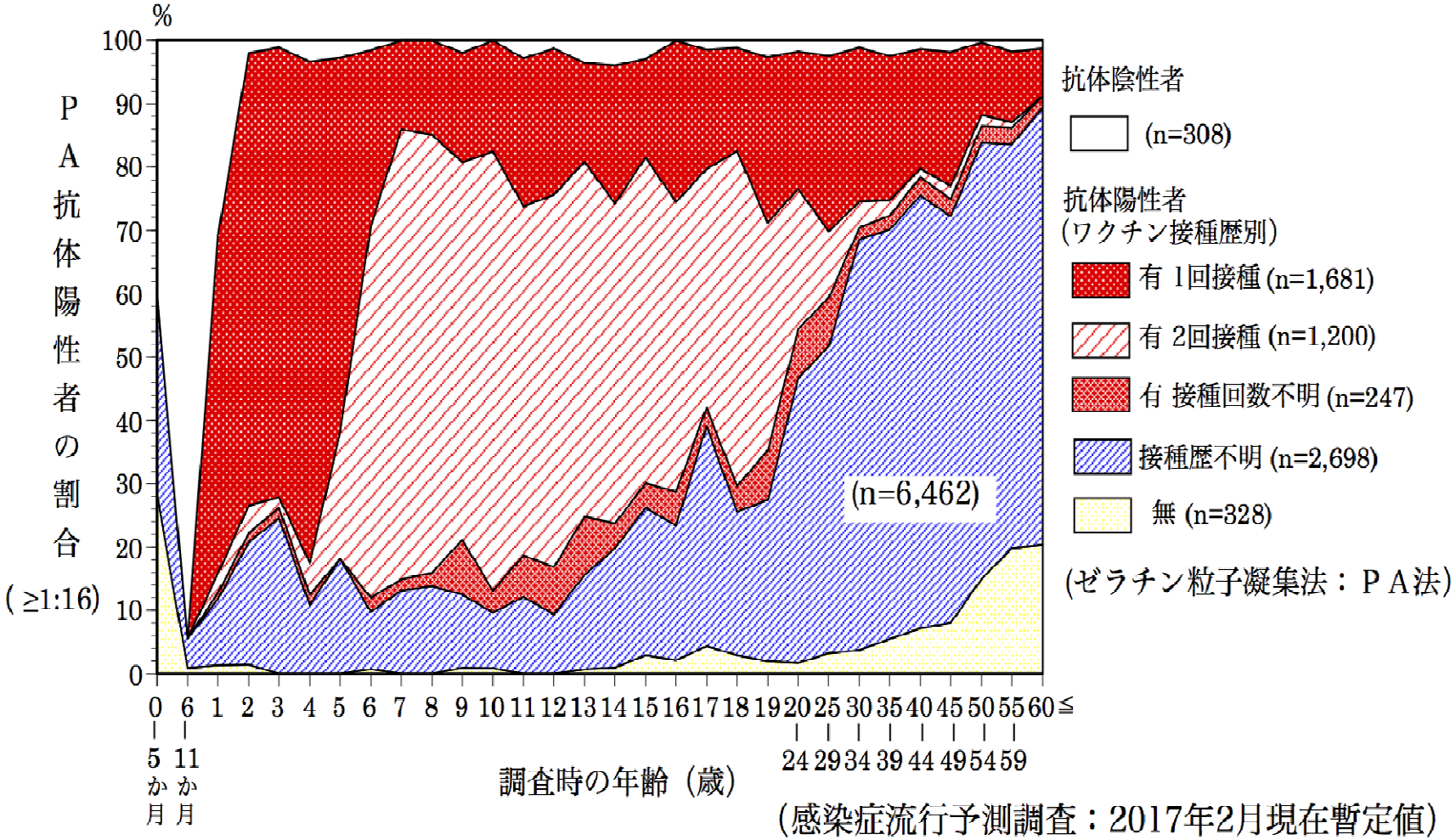
(感染症発生動向調査：2017年2月1日現在報告数)

IASR
Infectious Agents Surveillance Report

全国から報告された麻しん患者の流行曲線
（n=388、2015年第1週～2017年第46週）



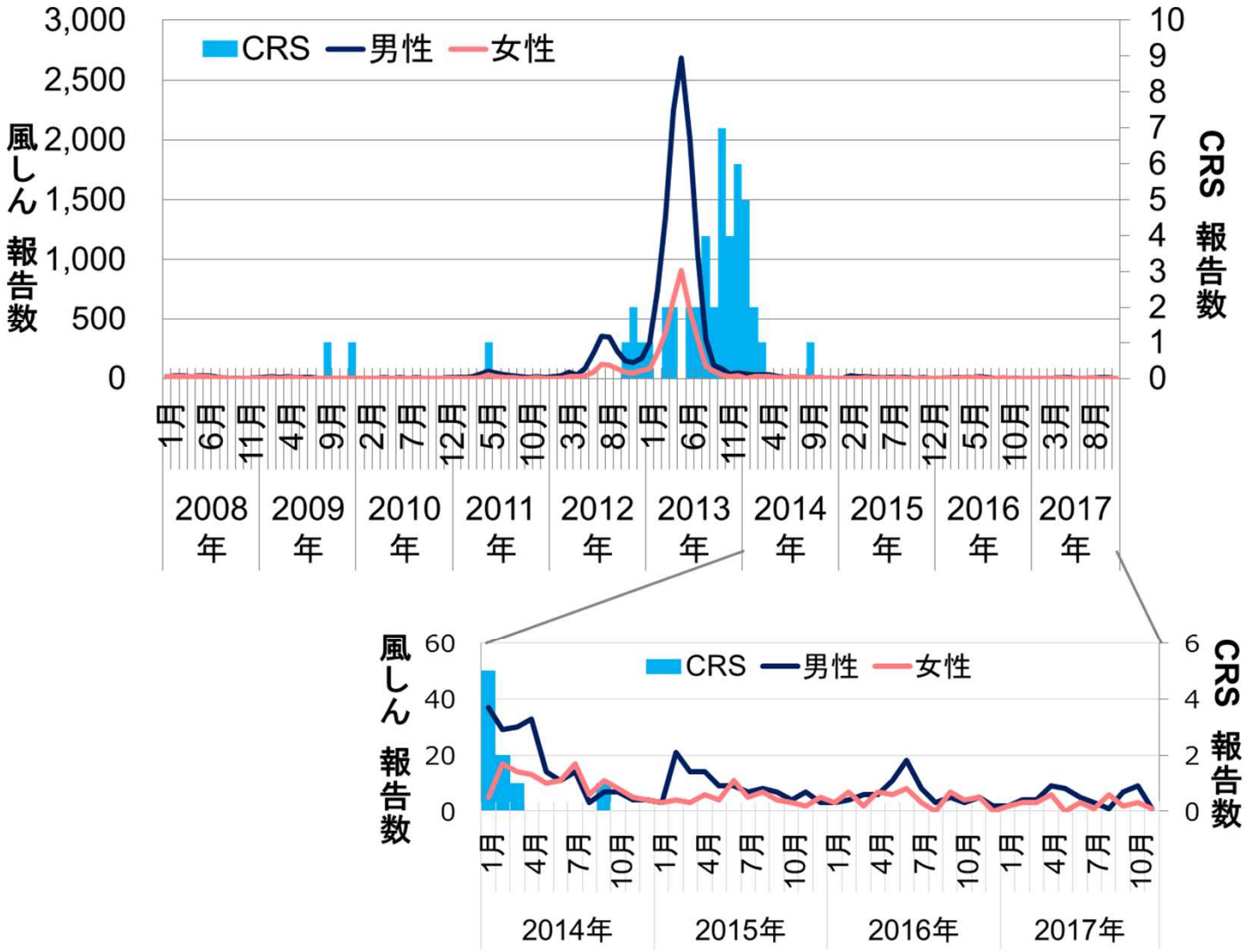
年齢別麻疹抗体保有状況、2016年度



(感染症流行予測調査：2017年2月現在暫定値)

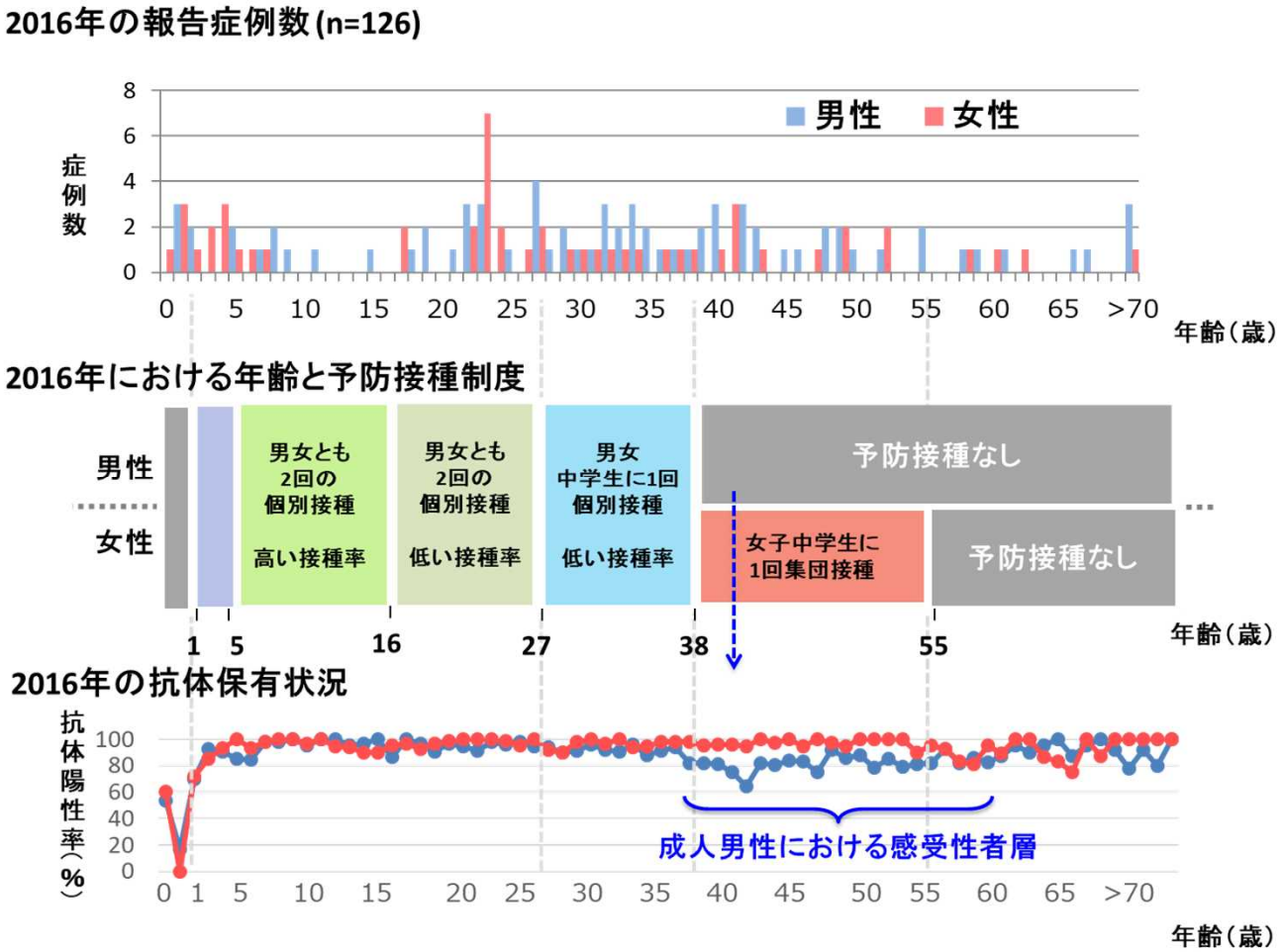
IASR
Infectious Agents Surveillance Report

2008年～2017年の性別ごと風しん報告数およびCRS報告数



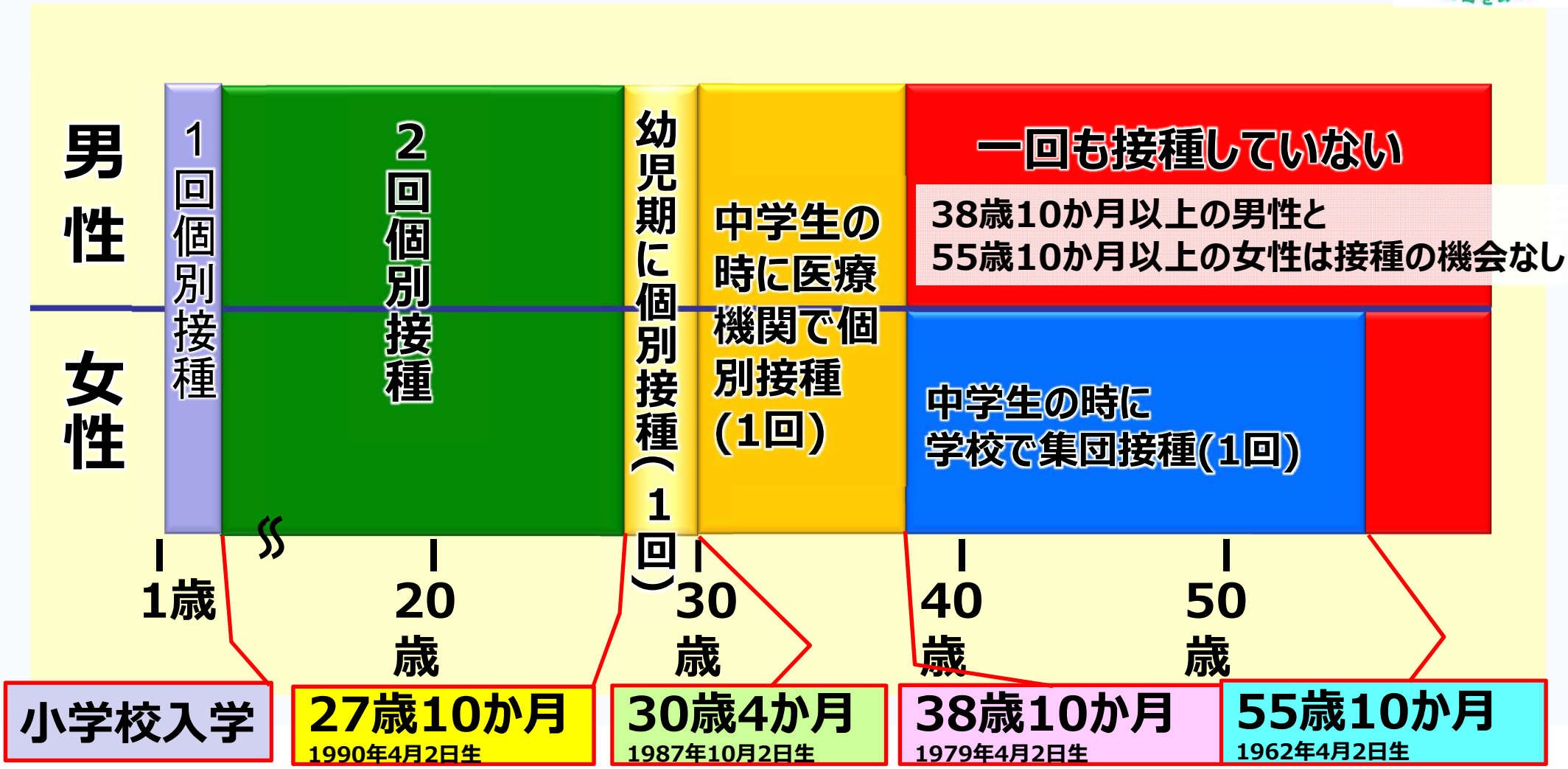
感染症発生動向調査（2017年11月15日現在）

2016年の性・年齢別風しん報告数、予防接種制度の変遷、および抗体保有状況の関連

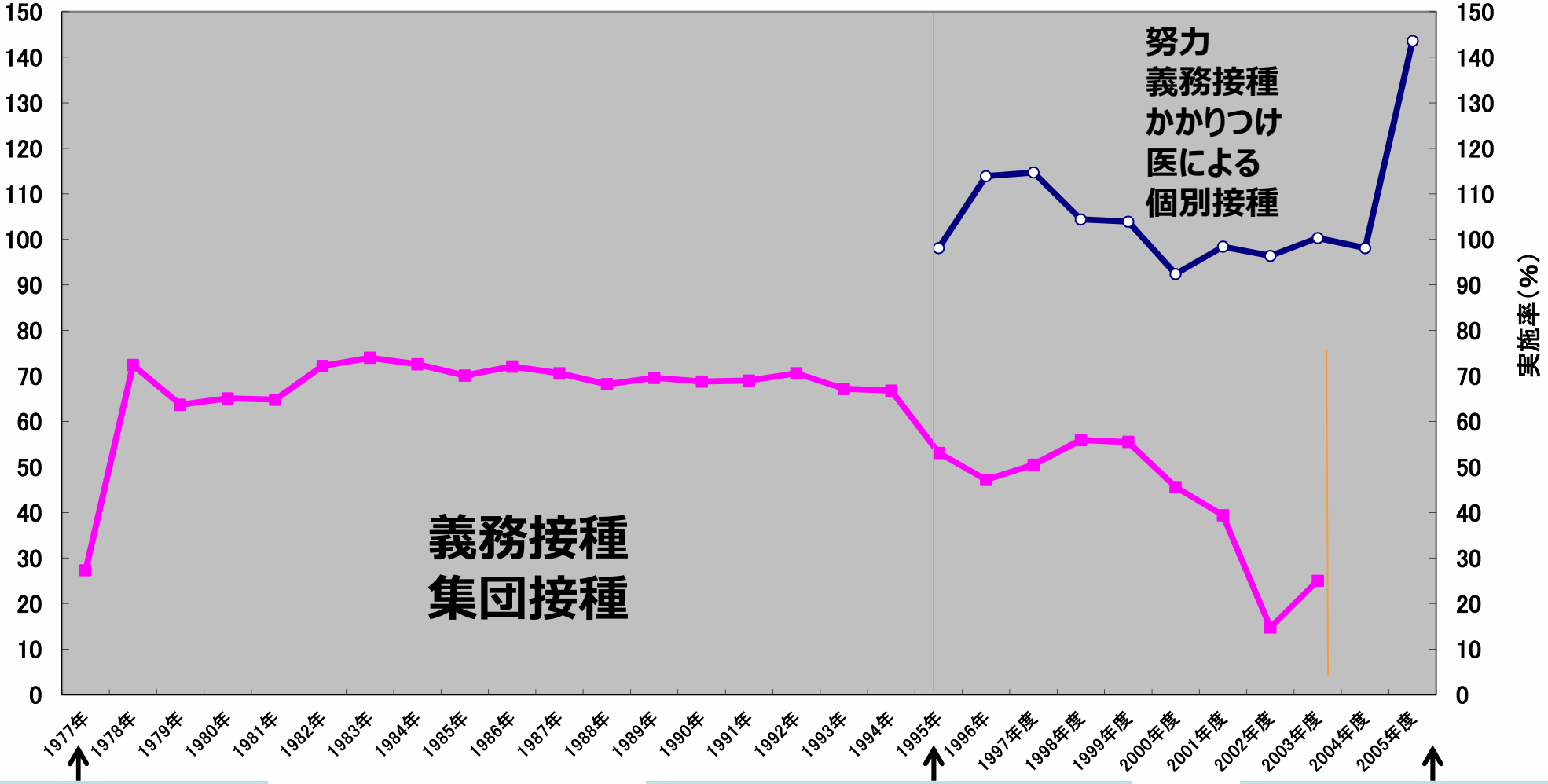


感染症発生動向調査（2017年11月15日現在）
国立感染症研究所．感染症流行予測調査；国民の風しんに対する抗体保有率：2016年度調査結果(2017年3月現在)

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係
（平成30（2018）年2月1日時点）



風疹含有ワクチン実施率の推移



1977年度から
女子中学生に対する定期接種開始

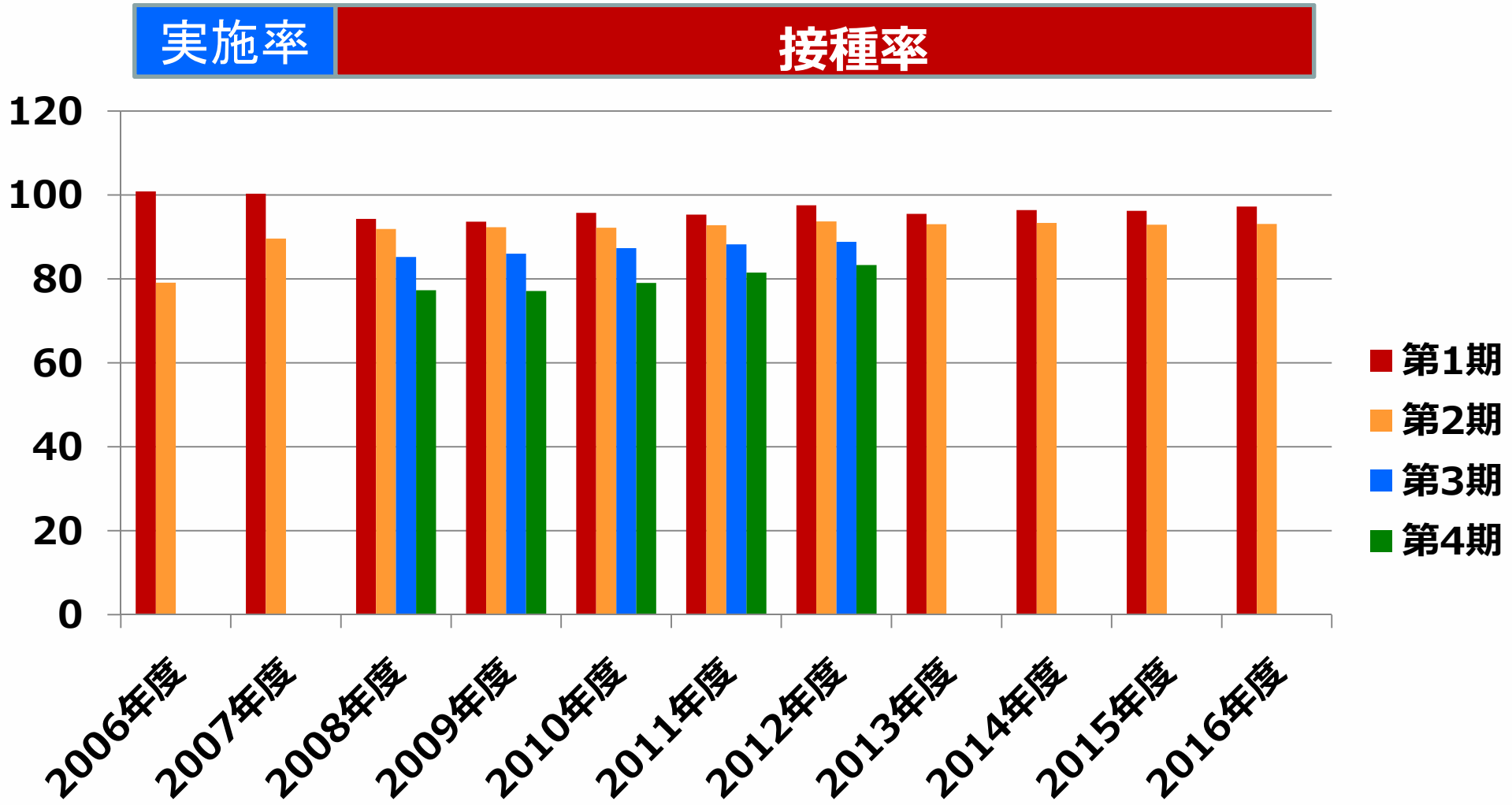
1995年度から男女幼児と男女中学生に対する
定期接種開始

2006年度から
第1期、第2期の2回接種開始

風疹（中学生、経過措置）　風疹（幼児）

風しんゼロをめざして！

風疹含有ワクチン接種率の推移
（厚生労働省、国立感染症研究所感染症疫学センター調査）



年齢/年齢群別風疹抗体保有状況、2006年度と2016年度の比較　感染症流行予測調査事業より

年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況, 2006年※1
～ 2006年度感染症流行予測調査より ～
※1 主に2006年7～9月に採取された血清の測定結果

年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況, 2016年※1
～ 2016年度感染症流行予測調査より ～
※1 主に2016年7～9月に採取された血清の測定結果：2017年3月現在暫定値

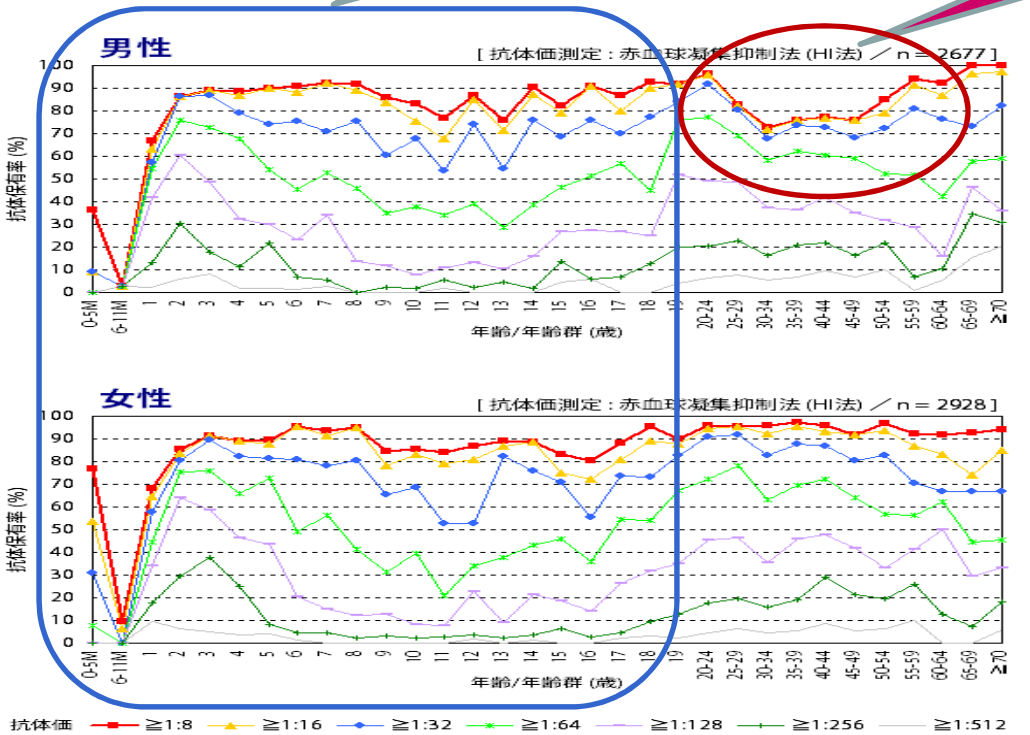
2～19歳の
感受性者減少

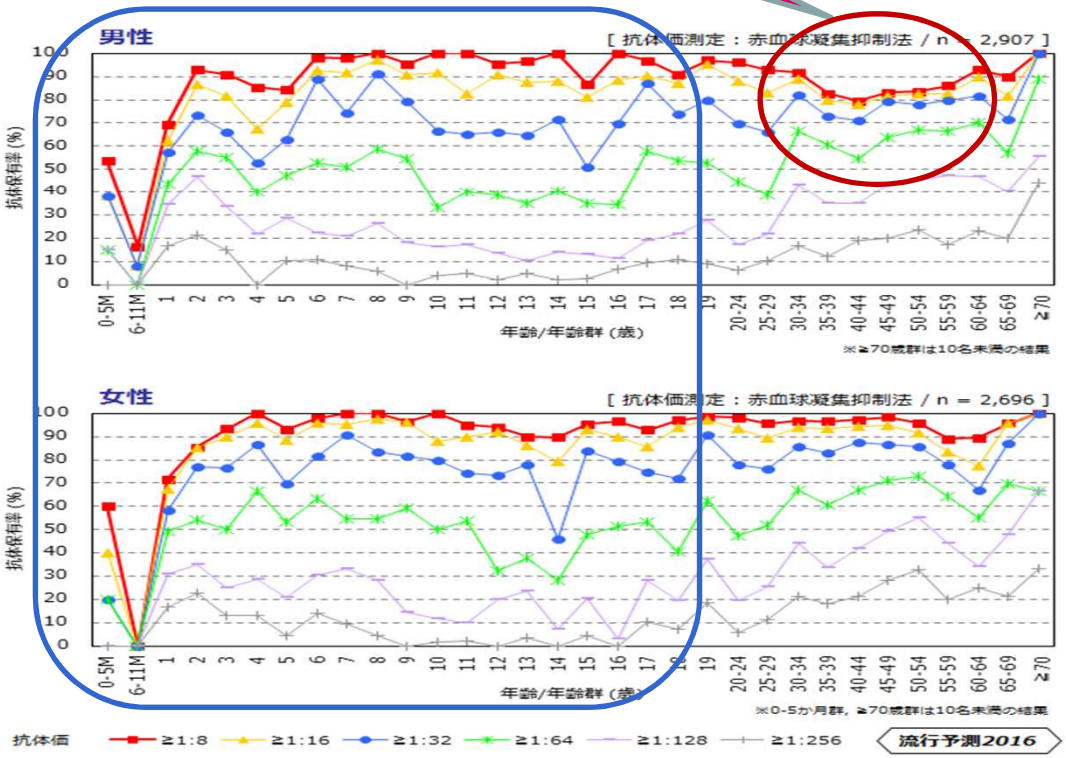
10年

20代後半～50代前半の男性の感受性者は30代後半～50代に残存

2006年度

2016年度

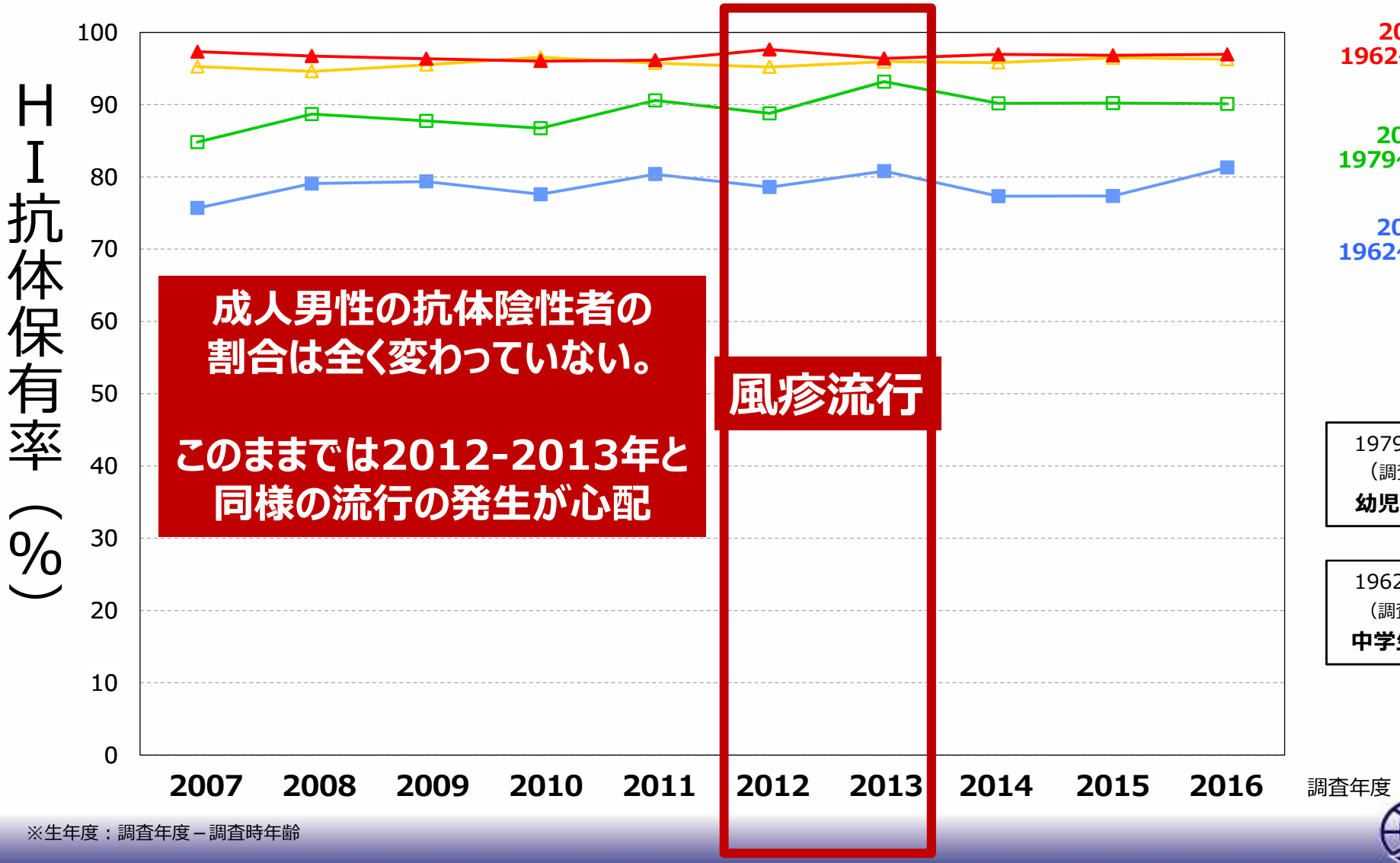




【 2006年度風疹感受性調査実施都道府県 】
宮城県, 山形県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 新潟県, 福井県, 山梨県, 長野県, 愛知県, 三重県, 山口県, 高知県, 福岡県, 沖縄県

【 2016年度風疹感受性調査実施都道府県 】
北海道, 宮城県, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 石川県, 長野県, 愛知県, 三重県, 山口県, 高知県, 福岡県, 沖縄県

29～55歳の男女風疹抗体保有状況（HI抗体価≧1:8）2007～2016年度の年度推移（感染症流行予測調査事業より）



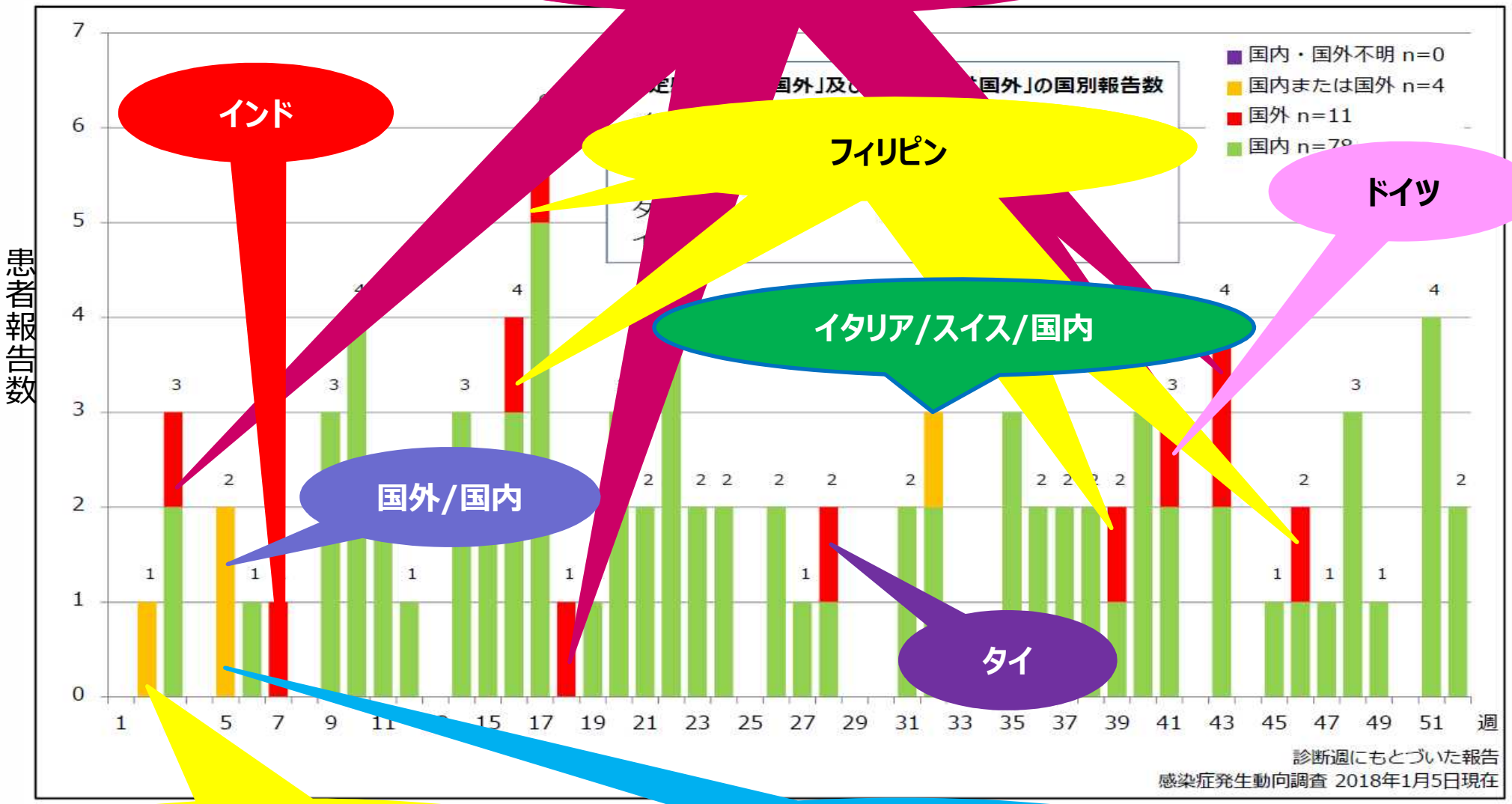
1979～89年度生まれ
（調査時 26～37歳）
幼児・中学生で１回

1962～78年度生まれ
（調査時 37～54歳）
中学生女子のみ１回

※生年度：調査年度－調査時年齢

推定感染地域別風疹患者報告数
2017年第1～52週 (n=93)

（感染症発生動向調査より）



インドネシア

インド

フィリピン

ドイツ

イタリア/スイス/国内

国外/国内

タイ

フィリピン/国内

モロッコ/国内